

山形県立寒河江高等学校 学校だより

ぶん すい れい  
**分水嶺**



平成 29 年 11 月 30 日

第 8 号

# 今胸突き八丁 ここを頑張れ！

かつて若く体力に最も自信があったころ、夏の富士山に登ったことがある。途中七合目の山小屋に泊まり、夜明け前に頂上を目指して出発した。体力に任せてぐんぐん高度をかせいだのだが、頂上直下の倒れかけたような木の鳥居が見えてから、九十九折（つづらおり）に続く急坂の一步一步がほんとうにきつく、登山靴に鉛でも入っているかのように感じたことを今でも鮮烈に覚えている。世に言う「胸突き八丁」、富士山頂上までの八丁（約 872m）が、特に陰しく辛く感じられることから、「物事の成就する手前のいちばん苦しい局面」を表す言葉である。受験をひかえた三年生諸君にとっては、師走を迎えようとする今こそ「胸突き八丁」の時期なのであろうと思う。中には、全国模試で思うように成績が伸びず、弱気になっている人がいるかもしれない。しかし、積み重ねた努力だけは最後にはあなたを裏切らない。それを信じてあと三ヶ月、奥歯を噛みしめて勉強を続けてもらいたいと願う。頂上の風景は、頂上を極めた者にしか見ることができない。頂上の火口をめぐり、房総半島まで続く壮大な風景を見下ろす中上ってきた太陽は、自分の一生の宝となった。今、不安と戦いながら、もがき苦しみ続けている日々の努力は、必ずあなたたちの人生を、力強く支えるであろう。まずは足元の今日一日、この一步を重ねていこう。

## 二学年修学旅行 好天に恵まれ無事終了

最終日の朝に訪れた「東寺」でこそ雨に降られたが、それ以外は晩秋の陽光に恵まれ、全ての行程を、充実して終えることができた。出発した14日の夜には、宿舎となった広島のホテルで、被爆体験者である畠山裕子さんに幼い頃の体験談を語っていただき、平和の大切さを学ぶ機会を得た。翌日には厳島神社や広島平和記念公園で研修を重ね、京都に移動した後、清水寺のライトアップを見学。三日目は奈良公園、東大寺、春日大社、薬師寺、法隆寺と巡ったが、薬師寺では9月に本校で講話して頂いた村上定運さんが、忙しい合間をぬって講話冒頭でお話しに来て下さったのには感激した。四日目の京都自主研修では、この時期としては最高の天候に恵まれ、各班充実した研修を行うことができた。現在日本にある21の世界遺産（文化遺産17・自然遺産4）の中の5つまで今回見ることは貴重であったし、体調を崩す生徒が一人もおらず、大きなトラブルもなく、194名の生徒全員が全日程に参加してくれたことは、なににも増して嬉しいことであった。二年生の成長が強く感じられた、すばらしい修学旅行であった。

# 全国大会、東日本・東北大会へ続々名乗り

## 祝 県高校新人大会 弓道女子団体準優勝！

1 1月3、4日両日、山形市スポーツセンターにて県高校新人大会弓道競技が行われ、本校女子弓道部が団体で準優勝に輝き、来年3月に福島県会津若松市で行われる東日本新人弓道大会への出場権を獲得した。予選を鶴岡中央高校とともに1位で通過した本校は、決勝トーナメントでも長井高校、天童高校を下して決勝に進出。山形中央に3本差で敗れはしたものの、日々の練習の成果を十分に発揮してくれた。また初日に行われた個人戦でも、**嶋貫紗笑**（2-2）が粘りの射を見せて、3位入賞を果たし、今月25日秋田市で開催された東北高校新人大会の出場権を獲得した。なお、同大会でも、嶋貫選手は決勝トーナメント進出こそ逃したものの、東北の強豪に伍して精一杯の射を披露してくれた。大きな大会で経験を重ねることで、弓道部にはさらなる飛躍を期待したい。

## 祝 県高校放送コンテスト新人大会 全国切符

今月3日に行われた県高校放送コンテスト・朗読部門において、**柏倉さくら**（2-3）が第2位（高文連賞）を受賞し、来年行われる**全国高校総合文化祭長野大会**の出場切符を手中にした。また、アナウンス部門では**茂木幸乃**（2-2）が5位、**鈴木茉緒**（2-5）が8位、**秋葉夏月**（1-1）が11位にそれぞれ入賞し、東北新人大会への出場権を獲得した。また放送部は、テレビキャンペーン部門においても「あのね、白石君・・・！」という作品で第3位入賞を果たし、あわせて東北新人大会への出品も決定した。

本校文化部は、この秋に行われたコンクールやコンテスト、大会においてすばらしい活躍を続けており、全国大会出場を果たした部だけでも四つ（美術、放送、新聞、将棋）を数えている。あと一步で全国を逃した書道部も力をつけており、これからアンサンブルコンテストに出場する吹奏楽部にもぜひ上位大会を目指して頑張ってもらいたい。

## 第61回日本学生科学賞山形県審査優秀賞

### 「原形質流動の最速化」(寒河江高校科学愛好会)

阿部愛海(1-3)、松本純平(1-4)、武田帆乃佳(1-5)

愛好会としてスタートを切ったばかりの本校科学愛好会が、大きな一步を記してくれた。今年で61回目という伝統ある日本学生科学賞（読売新聞社主催）において、優秀賞を受賞したのである。3年生の研究内容をベースに1年生部員3名が追加実験を重ねてまとめた、地道な研究が実を結ぶこととなった。今後の研究を楽しみにしたいと思う。